

飯豊 権内尾根～頼母木山～西俣尾根

棚橋

【日時】 2008年12月27日(土)～30日(火)

【メンバー】 L棚橋、田村、佐貫、山川、栗原

冬の飯豊を訪れるために、入下山ルートでの偵察に始まり、ラットレ、耐風訓練等、この2ヶ月間駆け足で準備を行い、漸くここまで漕ぎ着けた。年の瀬の忙しい中、何とか年内の仕事を片付け、思い思いの駅よりムーンライトに乗り込む。そして集まったところで、今年最後になると思われるビールで健闘を誓い合う。

12月27日 曇り時々小雨

新津駅には予定通り到着したものの、強風のため羽越線は既に出発時間を遅らす決定がなされていた。列車に乗ってからも、停まってばかりで何時に着くのか分からない有様。それでも、新発田駅を出発した頃には漸く時間が読める状況になったので、予約していたタクシー会社と、前日より乗り込んでいた佐貫に最終連絡を入れる。結局、予定より1時間半ほど遅いスタートとなった。

タクシーにて大石ダムに到着すると、いきなり風の洗礼を受ける。ダムの管理事務所にて挨拶がてら訪れ、風の当たらない場所で準備を整えさせて頂く。事務所の方は、「なんて物好きな…」と思われたことだろう。

偵察の時にも歩いた東俣川沿いの林道を、迷うことなく進む。積雪量は、一ヶ月前より少ない位だ。準備山行で偵察した木地小屋沢右岸尾根には、全く取り付く気にはなれない位の雪の量なので通り過ぎる。そんな状況なので、ブナイデ橋で軽く一本取った後、さっさと夏道を進む。カモス橋から先も偵察時にルートを把握済みなので、トラバース部も迷うことなく、カモス峰から延びる尾根に乗る。そして順調に高度を上げる。

稜線まで上がると吹き抜ける風が強いので、カモス峰手前のCo900付近をC1とする。電車到着遅れというビハインドがあったものの、14



ブナイデ橋の先は...

<http://www.tomanokaze.dojin.com/>

時過ぎには辿り着くことができ、先ずは順調な滑り出しである。

【テントの中で】

- ・すごい風。荷物が重い。これからの天気は良くなると信じつつ、ひたすら歩く。明日の稜線の強風が心配だなー。(佐貫)
- ・いよいよ年末年始山行に突入！不安要素もあるけれど、今、この山を楽しみたい。(栗原)
- ・風が強いが、心配したほどの悪天でもなく、順調にC1着。テントの中にいると、ごうごうとうなる風の音に時々はっとするが、和気あいあいとアグネスチャンやドリフ等の話題で盛り上がっている。穏やかなスタートになった。(山川)
- ・年末をいつものメンバーで楽しめるのは本当に嬉しい。荷物重く辛いけど頑張りたい。(田村)

12月28日 曇り(強風)

夜中から風が強く吹いている。幕営地が良かったため平和に、十分な睡眠が得られたが、今日の幕営予定地である杵差小屋まで順調に辿り着けるだろうか。大石山より先は、更に風が強いのだろうなど不安な気持ちが擡げてくる。しかし臆病風に吹かれたところで、「遙か先」を見据えているのが今回の山行である。「できること」を伸ばしていく他ない。ラジオ天気予報の概況によると、現在の強い冬型は午後より緩むと報じられていたので、その辺りを鑑みて出発する。

膝位のラッセルではあるがスノーシューに助けられ、権内ノ峰(Co990)、楓ノ峰(Co1050)を順調に越える。千本峰手前がやや悪かったが、田村さんがルート工作してくれ、看板が出ている千本峰に出発から3時間足らずで到達することができた。

少し下ってから前杵差岳への長い登りが控えている。登り始める所で、アイゼンへの履き替えを考え、先頭を交代する時にその事で声を掛けたが、まだ大丈夫かと思いつつ、そのまま進んだ。西側の中俣川から吹き上げる風が次第に強くなるのを感じていたが、疎林ではあるが稜線沿いの木々にガードされていたので、登高には支障を感じなかった。しかしCo1300付近から先は、木々も無くなり風の強さも顕著となる。耐風姿勢を取り、時折振り返る度、10m位後方から皆ついて来ているので、私も更に1歩1歩進んだ。50mほど標高を上げた地点で呼び止められ、後方では強風でバランスを失ったりして難儀していること知る。アイゼンを履いていないので、降りることは叶



千本峰は看板が出ている

わず、かと言って履き替えるにもザックを下ろせる状況ではない。「しまった」と思ったところで後の祭り。まずはザックを背負ったまま、お互いのスコップを外して穴を掘る。クラストしてなかなか掘れなかったが、何とかザックを下ろしてツェルトを被った。ツェルトを掴む手が離せないので交代で各自、防寒具を着たり手袋を替えたりして待機する。午後から冬型が緩むとの予報であったが、漸く強風が息をするようになったかなという程度。ここでは幕営する事もできないので、アイゼンを着けて風が弱まる所まで降りることにする。

ツェルトから出ると視界が悪くなっており、登って来た時より天候はむしろ悪くなっている感じだ。始めの内は耐風姿勢を取り、チャンス伺いながら降りていたが、動ける時間は僅かしかないので、ピッケルとアイゼンを雪面に刺し、四つん這いで下降を行なうことにする。高度を200mほど下げると漸く幕営が可能となり、ここで行動を終了とする。言葉にするとこれだけだが、下降に要した時間は3時間にも及んだ。正に追い返された感じだ。また、今日の行動に於いて田村さんが、右手人差し指に1度の凍傷を負ってしまった。

【テントの中で】

- ・風が強いなと思っていたら、前杓差の手前でとんでもない強風に！真剣に耐風姿勢をしてみました。明日は杓差を越えられるのだろうか？(佐貫)
- ・風の強い1日だった。明日は風がゆるむとよいけれど…。(山川)
- ・昨日と一変、「飯豊の風」に早速、洗礼を受けた。風に弱いのがモロに出てしまう。明日、杓差を越えられるか？(栗原)
- ・やってしまった…凍傷。情けない。久しぶりにピンチを感じた。(田村)

12月29日 曇り時々晴れ

朝起きるとテントの外は、風が音を立てて吹いている。準備をしながらいつもの如くイヤホンでラジオを聴いていると、聞きなれた名前が報じられ、思わず声が出る。

天気予報は昨晚と変わらず、今日は一時的に回復傾向を見せるが、また明日以降は荒天に向かう模様。今後の行動は先ず、あわよくば考えていた門内岳往復を割愛、そして今日中に最悪でも頼母木小屋に達することができれば西俣尾根から下降、それが無理なら、その地点から往路を戻ることと決定した。私は今日中に三匹穴より下まで下降したいと思っており、それは無理ではないと考えていた。しかし昨日の風のこともあるので、慎重な判断と行動が求められる



前日の強風開始地点

ことを忘れてはならない。

出発予定時刻になってもテントの外の風の音は相変わらずなので、弱まってから出発したいという意見が複数のメンバーから出され、出発を1時間遅らせることにした。

出発してみると、やや風はあるものの昨日とは雲泥の差で、3時間掛けて降りたところを、今日は登りにも関わらず1時間と掛からなかった。その後も順調に前杖差岳、杖差岳を越え、3時間弱で杖差小屋に着いた。小屋は完全に出ており、出入り口部のみ少し掘って、小屋の中で大休止を取った。そしてここで、ここまでの風の様子、一時的な回復傾向にある今日の天候より、今日中に三匹穴より下まで下りることを目標に行動することを確認する。

鉾立峰を越え、今回の山行で最も心配していた大石山も、飯豊としては微風だったため、視界がやや良くなかったが問題無く山頂を踏むことができた。しかしこの大石山、地形図によって位置が違い、特に視界が悪い時はパーティ内のコミュニケーションが重要と思われる。

そこから少しで、見覚えのある頼母木小屋へと着く。先を急ぎたい気持ちもあったが、デポ品をスッキリ回収することを優先し、ついでに大休止を取る。

相変わらず視界が余り良くないが、偵察の時よりは良い上、頼母木山の様子も分かっているの、迷うことなく山頂を踏む。記念写真を撮り、早々に山頂を後にする。

コンパスを振り、三匹穴を目指す。分かり辛い所も偵察済みなので、余計な時間が掛からない。前に付けた赤布を回収しながら下降を続け、幕営適地である大ドミの辺りで幕とする。この幕場は、ダイグラ尾根を従える本山が眺められる、素晴らしいロケーションだった。

しかし夜のニュースで、またも知った方の名が報じられ、ショックを受ける。また小屋より燃料の他、お楽しみグッズも荷下げしたので、少しでも荷を軽くしようと一人で頑張り過ぎてしまった。



杖差岳



頼母木山



【テントの中で】

- ・千本峰から一気に杵差、大石山、頼母木を越えた。何とか行動できる程度の風で助かった。大ドミの本山の見えるテン場でホッと一息。やっと安全地帯だ。(佐貫)
- ・不安だった乗越しができて、まずは一息。一瞬見える尾根が本当に美しい。良かった良かった。(田村)
- ・今日一日の風の合間を生かし、一気に頼母木を越え、安全地帯へ。これで一安心。(栗原)
- ・今日も一日風にうたれながら歩く。ここで判断を誤ると、あとに続く荒天につかまってしまう。空と風と相談しつつ頼母木を越えた時は嬉しかった。一瞬の晴れ間に見えた、稜線一帯の澄んだ美しさは忘れがたい。(山川)

12月30日 雪のち雨

天気予報通り、朝から吹雪いている中、田村さん先頭で下山を開始する。西俣ノ峰付近で、偵察時よりも更に増して荷上げがなされており、改めてこのルートが利用されていることを感じた。

赤布を回収しながら下山を続けると、途中から完全に雨に変わり、ずぶ濡れになってしまった。一ヶ月前よりも積雪量が減っていることに驚きながら足早に進み、民宿奥川入に到着。携帯は入らないので、宿の電話を使用させて頂かねばならないが、ずぶ濡れのため上がることは躊躇われ、導かれるままに入浴、そしてやっと下山連絡。更に囲炉裏にあたり、暖かい飲み物を頂く。こうして山行を終えた。

【下山して】

- ・朝、矢本さんの事故の結果を知る。やりきれない。下りるに従い雪が雨に変わり、ずぶ濡れで奥川入荘へ。あんな条件の中でも何とか予定のルートの大部分を無事にトレースして下りてくることができて何よりだった。(佐貫)
- ・民宿奥川入荘で、ストーブにあたりながら外の雨を眺めている。おとといの強風と、無事に下りてきた安心感と、友好山岳会の方の悲しい事故と。いろいろな想いが交差しながら、年末を下界で迎える。(栗原)
- ・今年も無事、年末山行を終えることができ、本当に良かった。来年も良い仲間と良い山に行けますように。(田村)
- ・良い山行だった。けれどわらじの方達の訃報を聞いて、手離して喜べない。同じ風の中に居た。今、穏やかに降り積もる雪を下界の暖かな暖炉の側で見上げていると、稜線の風の音が遠い遠い過去のことのように思えてくる。来年も皆が無事で、伴に良い山行を行えますように。(山川)
- ・「冬の飯豊」は、ほろ苦いデビューとなった。何とか無事に下りてくることができたが、考えさせられることも多くあった。まだスタート切ったばかりの今現在、行きたいルートは幾つも有る。しかし冬の季節、この山域に付き合ってくれる人は周りを見回してもあまり見当たらない。同行してくれる仲間を大切に、山行を続けて



いきたい。そして何より、山中にいる方々の一日も早い下山が、どうか叶いますように。(棚橋)

【行程】

- 12/27 大石ダム(8:48)～彫刻公園(9:32/37)～東俣大橋(10:08)～ブナイデ橋
(11:10/20)～カモス橋(12:02/12)～カモス峰手前Co890C 1 (14:06)
- 12/28 C 1 (5:50)～カモス峰(6:05/09)～権内ノ峰(7:07)～楓ノ峰(7:42)～千本峰
(8:47)～前杵差岳手前引返し地点Co1350(9:50/11:50)～千本峰先Co1150C
2 (14:50)
- 12/29 C 2 (7:10)～Co1350(8:00)～前杵差岳(8:45)～杵差岳(9:45)～杵差小屋
(9:50/10:35)～鉾立峰(11:10)～大石山(12:04)～頼母木小屋(12:50/13:40)
～頼母木山(14:05/10)～三匹穴(14:50)～大ドミ付近C 3 (15:08)
- 12/30 C 3 (5:50)～西俣ノ峰(7:30)～奥川入(9:20)

【地図】 安角、杵差岳、飯豊山、長者原(二王子岳)

